

令和3年度教育課程研究集会
【中学校 保健体育科】

体育・保健体育科の指導における ICTの活用について

奈良県教育委員会事務局
保健体育課 学校体育係
指導主事 福井 栄作

1. 学習指導要領及び解説

学習指導要領及び解説（中学校）

（3）第2の内容の指導に当たっては、**コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用**して、**各分野の特質に応じた学習活動**を行うよう工夫すること。
〔中学校学習指導要領（平成29年告示） 保健体育〕

例えば、体育分野においては、学習に必要な情報の収集やデータの管理・分析、課題の発見や解決方法の選択などにおけるICTの活用が考えられる。また、保健分野においては、健康情報の収集、健康課題の発見や解決方法の選択における情報通信ネットワーク等の活用などが考えられる。

なお、運動の実践では、補助的手段として活用するとともに、効果的なソフトやプログラムの活用を図るなど、**活動そのものの低下を招かないよう留意することが大切**である。

また、情報機器の使用と健康との関わりについて扱うことにも配慮することが大切である。
〔中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編〕

新学習指導要領の全体構造

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

何が身についたか

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的
に示す

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習
得など、新しい時代に求
められる資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質
の高い理解を図るための
学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び



3つの資質・能力の
育成の為に有効な

ICT活用の

方法は？場面は？

ICTの活用が

- ・生徒の学習改善
- ・教師の授業改善
にどうつながるか？

【学習評価の充実】

主体的・対話的で
深い学びの実現の
ために

ICTを

どのように活用す
るか？

2. 効果的な活用例

GIGAスクール構想のもとでの保健体育科の指導においてICTを活用する際のポイント

保健体育科で育成を目指す資質・能力と1人1台のICT端末の活用

保健体育科では、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現することを目指し、「**知識及び技能**」「**思考力、判断力、表現力等**」「**学びに向かう力、人間性等**」の**三つの資質・能力の育成**を重視している。これらの資質・能力を育成する上で、GIGAスクール構想のもとでの**1人1台端末の活用**に当たり、以下のような**活用場面と活用の効果**が考えられる。

知識及び技能の習得の場面

技ごとの動画を繰り返し視聴したり、スローで再生したりする。

知識の理解が深まる。

AEDの使用手順を動画で再確認

撮影した自分の取組動画を視聴

修正点を意識して、再度実施することで技能が確実に習得される。

思考力、判断力、表現力等の育成の場面

各自の視点で、ゲームの撮影動画を確認することで、チームの特徴に応じた作戦を考える。

各自で考えたチームの特徴に応じた作戦をチーム内で話し合う。

思考力、判断力、表現力等の育成が促進される。

学びに向かう力、人間性等の涵養の場面

過去の自分の記録や動きを確認する。

自己の変容を確認する。

愛好的な態度の涵養につながる。

※上記の例はあくまで一例であり、今後、更なる効果的な活用が期待される。

知識の習得

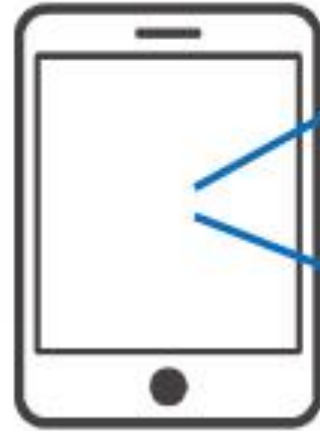
跳び箱運動の技の行い方について、一斉に視聴



これまで児童・生徒は、技の行い方について、その時間内に理解することが求められた。

知識の習得

1人1台になると...



技ごとの動画を視聴



技の行い方について、見たい動きを必要に応じて繰り返し視聴

個に応じた学びが可能になる。

技能の習得①

学習の様子を1台のタブレットで視聴



自分の動きを
確認したいな
...

これまでは自分の動きをじっくりと見るのが難しかった。

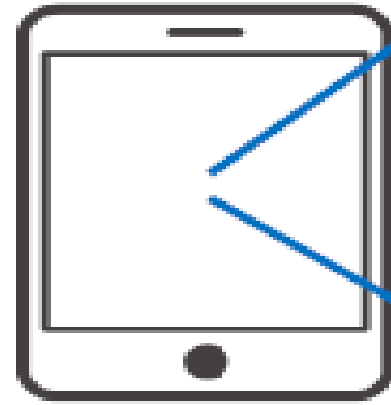
技能の習得①

1人1台になると…

- ・自分が確認したい場面を
繰り返し確認



- ・授業で学習した動きのポイントと自分の動きを比較し、
できている点や修正点を確認



自分の動きを即座に確認することができる。

技能の習得②

逆上がりにも挑戦している状況を撮影して確認



前の動きを
確認したいな...

これまでは、前時の自分の動きを確認することは難しかった。

技能の習得②

1人1台になると…

・毎時間の動きを撮影



・動きの変容を確認



前々時



前時



本時

動きを確認することにより、自己変容を確認することができる。

活用例 4 (体育)

思考力, 判断力, 表現力等の育成

ゲームの映像を全員で視聴しながら、次のゲームにむけて作戦を考え、交流する。



あっ！そこ、
スローで観た
いんだけど…

これまでは、限られた時間内に、チーム全員で同一画面の動きを確認していた。

思考力, 判断力, 表現力等の育成 1人1台になると...

・各自の視点で、ゲームの撮影動画を見返す。



・各自が次のゲームに向けての作戦を考える。



・各自が考えた作戦をもちよって、チームで交流する。



自分の考えを深めて対話をすることができる

活用例 5 (体育)

学びに向かう力，人間性等の涵養

毎時間、学習カードに手書きで記録を記入



これまでは、過去の50m走のタイムや走り高跳びの記録をその場で調べることは難しかった。

学びに向かう力, 人間性等の涵養

1人1台になると...

・過去の自分の記録や全国の
平均値を検索



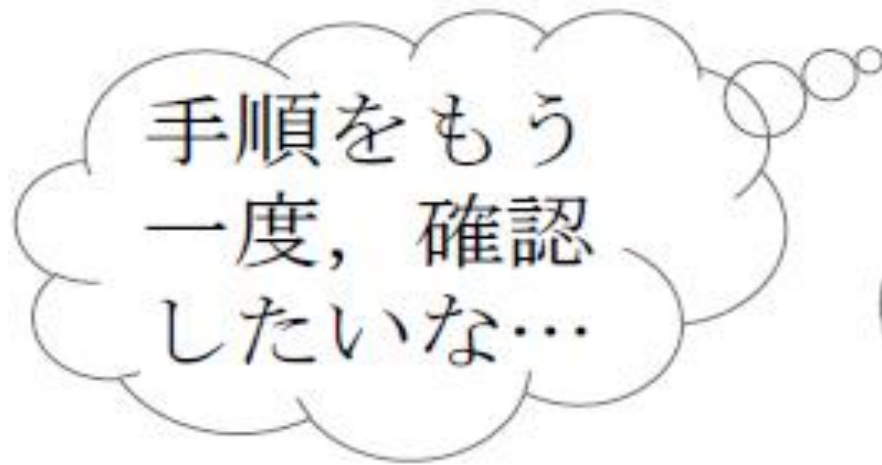
・記録の伸びを実感



その場で、過去の自分の記録や全国の平均値等との比較ができる。

知識及び技能の習得

心肺蘇生法の学習



これまでは、一斉指導や動画視聴などにより、理解を深めることを図った。

知識及び技能の習得

1人1台になると…

- 手順を動画で再確認



- 撮影した自分の取組動画を視聴



- 修正点を意識して、再度実施



自分の取組動画を確認しながら、試行錯誤することにより、一層理解が深まり、技能の向上を図ることが期待できる。

思考力, 判断力, 表現力等の育成

「けがの防止」の学習

校内の危険箇所を考え、その対策について話し合う。



実際に確かめて
いないので、
これだけでは、
解決方法が思い
浮かばないな...

これまでは、教師が用意した危険箇所の写真を基に、クラス全員やグループで課題発見や課題解決の方策を話し合った。

思考力, 判断力, 表現力等の育成 1人1台になると...

- ・各自の視点で、危険箇所を撮影
- ▼
- ・各自が対策を立案
- ▼
- ・グループで交流



各自が自分の判断で危険箇所を撮影し、友達が撮影したものと比較したり、それぞれの対策を考えたりするなどして思考を深めることができる。

3.1 人1台による学習の効果

活用例 1 (体育)

知識の習得

跳び箱運動の技の行い方について、一斉に視聴



あのスライド、もう少しじっくり見たいなあ…



これまで児童・生徒は、技の行い方について、その時間内に理解することが求められた。

活用例 4 (体育)

思考力、判断力、表現力等の育成

ゲームの映像を全員で視聴しながら、次のゲームにむけて作戦を考え、交流する。



あっ！そこ、スローで観たいんだけど…

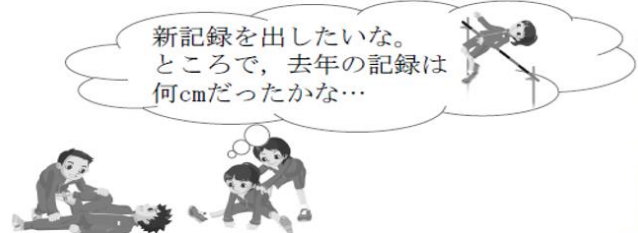
これまでは、限られた時間内に、チーム全員で同一画面の動きを確認していた。

複数に1台では・・・ 様々な課題が！

活用例 5 (体育)

学びに向かう力、人間性等の涵養

毎時間、学習カードに手書きで記録を記入



これまでは、過去の50m走のタイムや走り高跳びの記録をその場で調べることは難しかった。

活用例 6 (保健)

知識及び技能の習得

心肺蘇生法の学習



これまでは、一斉指導や動画視聴などにより、理解を深めることを図った。

1人1台を有効に活用することによる効果

繰り返し視聴
→ 個に応じた
学び



即座の確認
自己変容の
気付き
→ 意欲の高まり



1人に1台では・・・多くの学習効果が！

学習内容とその効果
の積み重ねの確認
→ 意欲的・積極的な
態度の涵養



課題とICT活用による生徒の期待できる姿

- * **運動する子供とそうでない子供の二極化傾向**
- * **運動時間の減少にともなう体力の低下**
- * **健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分**



- * **苦手だった運動ができるようになり、運動が好きになる。**
- * **運動することへの意欲が高まり、積極的に運動するようになる。**
- * **自己の健康課題に主体的に取り組むようになる。**

学校におけるICT活用の際しての留意点

- ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう留意し、教育効果を考えながら有効に活用することが重要。
- ICTの学校教育への影響の全てを現時点で予測することは困難であり、児童生徒が日常的に活用することにより、予想しなかったような形で児童生徒の可能性が引き出されることも考えられる。
- 教職員の協働による創意工夫を生かして活用を図る。 等

各教科等での効果的な指導を図ること

教育課程内外を通じた児童生徒による日常的な活用の推進



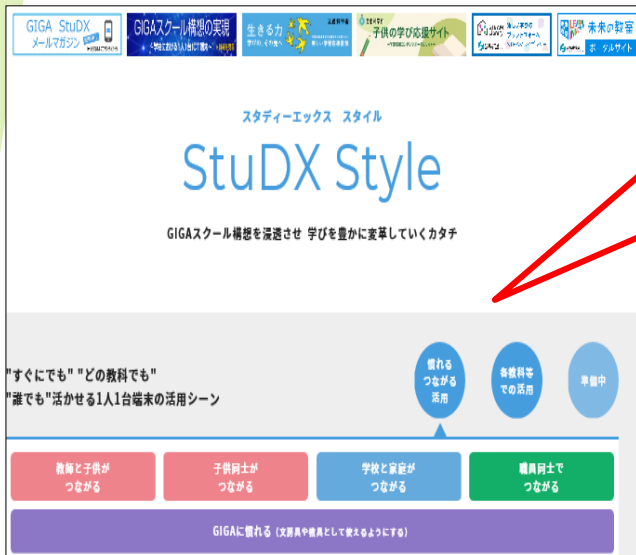
◎両輪を回しながら、学校の教育活動全体を通じてICT活用を推進していくことが大切。

引用・参考資料等

●各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料

- ・「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について」
- ・「体育・保健体育科の指導におけるICTの活用について」
(文部科学省HP)

●「StuDX Style (スタディーエックス スタイル)」



【教師と子供がつながる】

- ・家庭学習カードのオンライン化
- ・「朝ノート」で健康観察

【子供同士がつながる】

- ・付箋操作のオンライン化
- ・アウトプットを共有して違いのよさを発見

【学校と家庭がつながる】

- ・学級通信を通じた家庭との情報共有
- ・懇談日程の希望調査のオンライン化

【職員同士でつながる】

- ・教員のスキルアップ
- ・職員会議のペーパーレス化

終わり

ご視聴ありがとうございました。